

香取おみがわ医療センター

Katori Omigawa Medical Center



地域住民に愛される病院を目指して

地域住民に愛される病院を目指して

基本理念

患者中心の医療

適正な病院経営による良質な医療の提供



基本方針

- 地域医療を担う中核病院として市民の健康維持・増進に努めます。
- 地域住民が安心して暮らすことのできる地域医療の実現に寄与します。
- 医療の質と患者サービスの向上、安全な医療の提供に努めます。
- 地域の医療機関、福祉施設、行政機関と連携した医療を提供します。
- 地方独立行政法人として、自主性・公共性・透明性の高い病院運営を行います。



地方独立行政法人
香取おみがわ医療センター

理事長 寺野 彰

「地方独立行政法人香取おみがわ医療センター」は、令和元年9月に新築した香取市立病院を令和4年4月1日に独法化した100床の新進気鋭の病院であります。私はこの法人の初代理事長を務めることになりました。これまで学校法人獨協学園理事長職を長く務めてきましたが、病院経営の新しい目標に向けて、残りの人生を当医療センターと地域のために燃焼させていきたいと考えています。

当医療センターは、昭和30年8月「国保小見川中央病院」として開設以来、歴代病院長のもと香取地域医療を担う中核病院として、高度かつ患者本位の医療を実現すべく努力してまいりました。今回の独法化に伴い、当面4年間の中期目標として、急性期医療、かかりつけ医機能、在宅医療の3つを医療機能の柱に、地域住民が安心して暮らすことのできる地域医療の実現に注力してまいります。周辺の医療機関の先生方、市長をはじめとする行政の方々、そしてなによりも住民の皆様、よろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延は、医療というものの本質を大きく変えようとしています。このような疾患概念の本質的変化は、今後も続いていくでしょう。21世紀はもとより22世紀をも見据えた地域医療を香取の地に根付かせていきたいと切望しておりますので、皆様のご協力と励ましを強く願うものであります。



地方独立行政法人
香取おみがわ医療センター

副理事長・病院長 桑原 憲一

「地方独立行政法人香取おみがわ医療センター」は、昭和30年8月に「国保小見川中央病院」として開設され、平成元年に「国保小見川総合病院」となり、さらに、令和元年の新病院開院に伴い香取市立病院となって「香取おみがわ医療センター」に名称を変更いたしました。そして、令和4年4月1日から運営形態を地方独立行政法人として新たなスタートを切ることになりました。

当医療センターは香取市や周辺地域の中核病院として、近年は循環器内科の急性期医療や、脊椎脊髄センター等の整形外科専門的医療を中心として地域医療を担ってまいりました。この独法化を契機として、その利点を生かしながら減少した常勤医を増やし、提供できる医療の分野を広げ、さらに医療の質を高めて患者サービスの向上を図っていききたいと考えています。

また、地域医療を取り巻く環境も多種多様化しております。一つの医療機関において完結する「病院完結型」は困難であり、これからは地域の医療機関で連携を図る「地域完結型」が重要になります。その一翼を担う病院として貢献できるよう、また、安心で安全な医療を継続的に提供できるように職員一丸となって取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

香取市について

香取市は、東京から70km圏の千葉県北東部に位置し、水郷と称される利根川下流域の広大な水田と、肥沃な北総台地を有しています。舟運で栄えた伝統的な町並みや祭り、豊かな水辺と里山に恵まれた歴史と自然のまちです。

急性期医療、かかりつけ医機能、在宅医療を地域住民へ

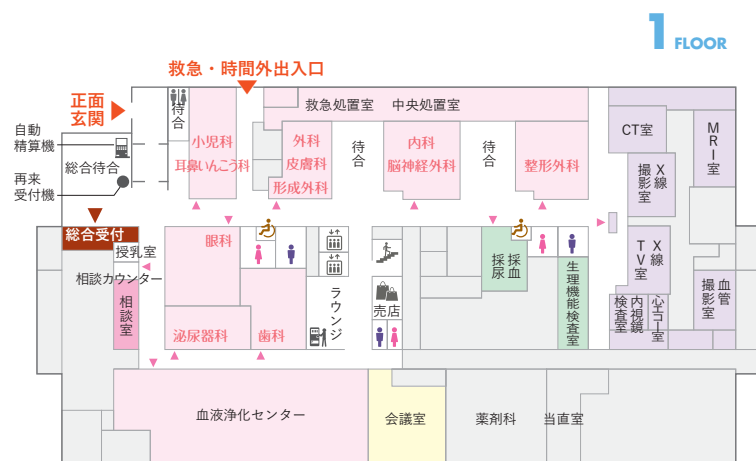
病院概要（令和4年4月現在）

- 病 床 数 100床 東病棟50床、西病棟50床（地域包括ケア病床含む）
- 標 榜 科 目 14科
内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、歯科
- 手 術 室 クラス100（BCR） 1室（80.75㎡）、
クラス1,000 1室（65㎡）
クラス10,000 1室（63㎡）
- 入 院 料 急性期一般入院料4
- 設 立 令和4年4月1日 地方独立行政法人
（開設 令和元年9月1日）
- 構 造 鉄骨造 地上4階建（耐震構造）
- 敷 地 面 積 23,872.90㎡
- 延 床 面 積 9,925.75㎡
- 附 属 施 設 香取おみがわ医療センター附属看護専門学校

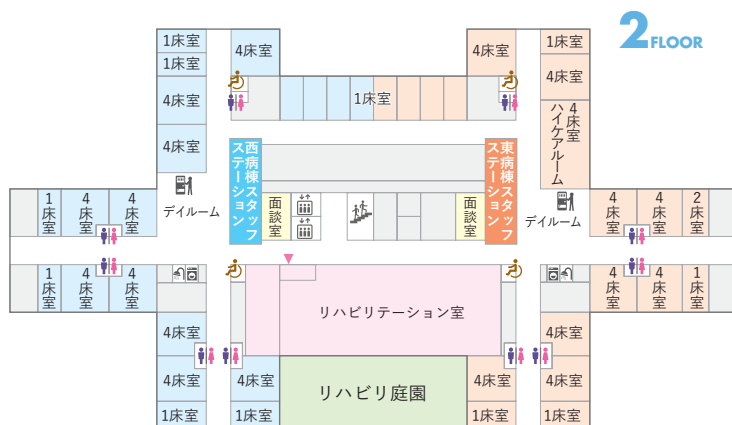


■主な認定施設

- 救急告示（二次救急）
- 生活保護法指定医療機関
- 労災保険指定医療機関
- 指定自立支援医療（更生医療・育成医療）
- 原子爆弾被爆者一般疾病医療取扱指定医療機関



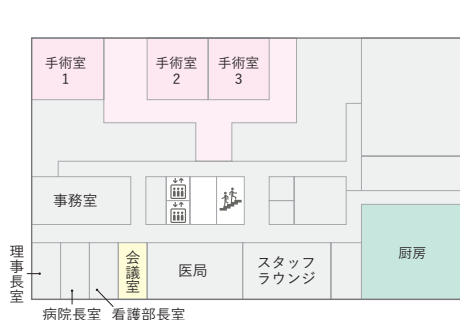
リハビリ庭園



総合受付



西病棟デイルーム



ホスピタルストリート

地域の急性期医療を担う

低侵襲手術や体に負担の少ない手術方法を積極的に

循環器内科

循環器疾患カテーテル治療 ～限りなくスピーディーに、より低侵襲に～



平成11年、香取地域の病院に先立って冠動脈カテーテル治療（PCI）を開始し、現在はその中心的役割を担っています。急性心筋梗塞治療では、Door to Balloon Timeを短縮するため、「Code AMI」院内コールを開始し、迅速な治療を行います。平成28年からはカテーテルアブレーション治療を開始し、適応は拡大しています。令和元年には循環器診断システムを一新し、高画質化と一層の被爆低減が可能になりました。（年間手術件数 PCI 約230件、EVT約30件、ABL約80件）



整形外科

脊椎脊髄センター ～すべての脊椎脊髄疾患を経皮的内視鏡手術に～

平成19年に脊椎脊髄センターを開設。腰椎椎間板ヘルニア、脊椎管狭窄症、頸椎症をはじめ脊椎腫瘍、脊椎靱帯骨化症、脊椎骨折などすべての脊椎脊髄疾患に対応しています。他院に先駆けて平成20年からPELDを始め、頸椎、胸椎、腰椎のすべての脊椎に対し、前方・後方とも基本的にはPELDにより1泊2日程度の入院で行います。ほとんどの脊椎脊髄疾患にPELDで対応できるのは、当センターの大きな特長です。

（年間手術件数 約400件、千葉県1～2位、国内で常に上位）



肩関節・肘関節疾患 ～低侵襲手術を積極的に取り入れて～

肩関節障害では、上腕骨頭部骨折などの外傷をはじめとして腱板断裂や反復性肩関節脱臼、投球障害肩などのスポーツ障害、変形性肩関節症といった慢性疾患等を、また肘関節障害のうち肘周辺の骨折、変形性肘関節症、肘関節リウマチ、野球肘等をリハビリテーションスタッフと連携しながら治療しています。手術は侵襲の少ない関節鏡による手術を積極的に取り入れています。

股関節・膝関節疾患 ～体に負担の少ない手術方法を～

股関節疾患（臼蓋形成不全、大腿骨頭壊死症、変形性股関節症、急速破壊型股関節症など）及びリウマチによる関節変形に対する手術治療を行っています。特に人工股関節置換術については、千葉大学整形外科と連携し、人工関節認定医による最小侵襲手術を行っており、術後早期の機能回復を目指しています。

膝関節疾患ではスポーツや外傷に伴う靱帯損傷、軟骨損傷、軟骨がすり減る変形性膝関節症や骨壊死、膝関節周辺の腫瘍等の疾患の診断、治療を行っています。生活スタイルやご希望を踏まえて、靱帯再建術や軟骨修復術といった最先端治療、また骨切り術や人工膝関節置換術まで最適な治療法を選択しています。

（年間手術件数 上肢・下肢疾患 令和2年度294件）



眼科



白内障手術 ～低侵襲手術を、より安全に～

灌流圧センサーを内蔵した超音波白内障手術装置（令和4年度導入予定）により、術者のコントロール性を高めて低侵襲で安全な手術を行います。

（年間手術件数 令和2年度416件）

ホスピタリティ溢れる、快適な療養環境

入院療養される方の、在宅復帰を円滑に

急性期一般病床と地域包括ケア病床により、手術治療から在宅復帰に向けた支援を円滑にサポートします。豊かな療養環境とするため、光や緑などの外部環境を積極的に取り込んだ病棟としました。温かみのある木目調のインテリアと大きな窓を設けた、ゆったりと落ち着いた雰囲気のある病室で、24時間のきめ細かな診療と看護を行います。

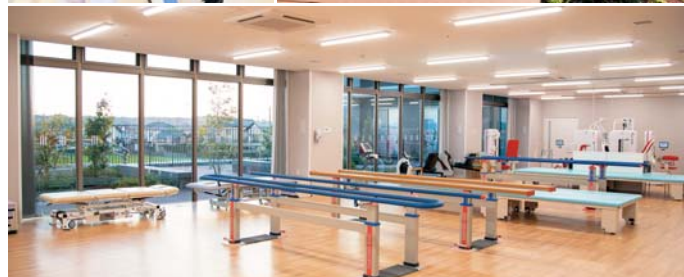
●医療スタッフが見守るための多翼型病床レイアウト

病床を多翼型レイアウトとすることで、スタッフステーションから病棟内の見通しが良く、患者さんを見守るとともにスタッフ動線の短縮が図られています。すべての病室が屋上に面しているため、災害時には外部への一時避難が容易に行えます。



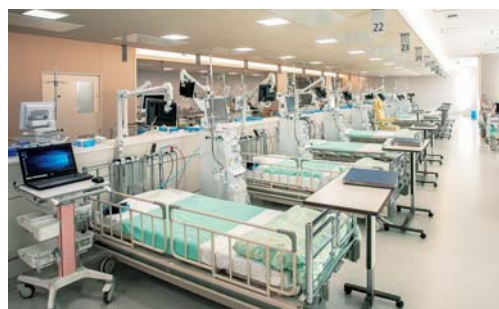
●シームレスなリハビリテーション

在宅復帰に向けたシームレスなリハビリテーションを提供するため、リハビリテーション部門を2階の病棟フロアに併設しました。また、外来からも利用しやすく、エレベーターホールは隣接しています。室内は南側を全面ガラス窓とするとともに、リハビリ庭園を設けて明るく開放的な治療環境を整えました。



●血液浄化センター

繰り返し来院される患者さんや送迎者の負担を少なくするために、1階の正面玄関近くに血液浄化センターを設けました。南向きの室内に加えて、優しく圧迫感のない天井構造とすることで、空気式天井放射冷暖房システムを導入し、天井素材と一体化したパネルから空調空気が緩やかに吹き出すことにより、明るくて均一な室温と静かな環境を備えました。



チーム医療

東病棟と西病棟の間に共用カンファレンスを配置して、多職種協働のチーム医療をバックアップできる環境を整備しています。



●ハイケアルーム

循環器疾患や腎臓疾患等の急性期疾患、手術後や救急搬送後などの症状に応じて集中的治療が必要な患者さん等へ高水準の医療を提供しています。重症・入院患者に対し血液浄化を施行できる設備を完備しています。



地域医療を担い、 私たちができること

患者さんに負担のない 外来診療

高齢者等にわかりやすく、車いす等を使用される方にも受診するための負担がないように、1階の1フロアに外来診察室、画像診断部門、検査部門や内視鏡部門を配置しました。

地域に必要な診療科を備え、「かかりつけ医」としてプライマリケアの充実を図ります。



救急医療の充実を

医療者の総力を結集する、外来バックヤードのスタッフ連携

内科・外科・整形外科外来のバックヤードに、共有する中央処置室を配置して医師・看護師等のスタッフ協力を容易にします。また、隣接した画像診断・検査部門の積極的な協力から、二次救急医療の充実など、スピーディーで総合的な医療サービスを提供します。



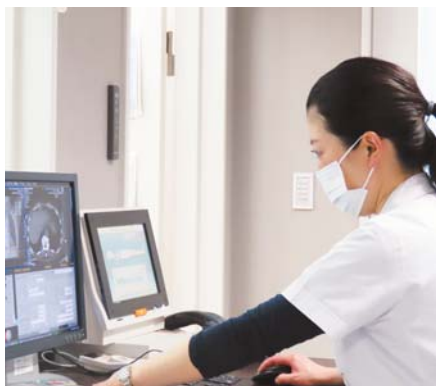
医療を、それぞれのプロフェッショナルがサポート

それぞれの専門技術を医療に集中させて、患者さんへ高度な医療、そして安心と安全を



●医療支援部

医療支援部は、薬剤科、放射線科、臨床検査科、リハビリテーション科、臨床工学科、臨床栄養科、視能訓練科、歯科衛生科の8部署の約50名で構成しています。当部は「専門職としての独自性を基盤として、多職種間での相互理解・連携を通じ、適切な医療支援、患者サービス、地域医療に貢献する」を基本理念とし、それぞれが独立した専門職ではありますが、実臨床下では協力して診療を支援し、また、定期的な会議を設けて、業務状況の共有や新規取り組みなどを協議しています。



●看護部

看護部理念を「おもいやり」とし、患者さんご家族が“香取おみがわ医療センターに来て良かった”と心から思っているように、一人ひとりのニーズに対応した看護を提供しています。教育面では、求める看護師像として、地域で暮らす人々を支え見守り続ける看護師、看護の核となる実践能力を上げることができる看護師とし、JNAラダーに準拠した教育プログラムを用意し院内研修を実施しています。一般病棟では専門性の高い医療、地域包括ケア病床では自宅に退院するためのケアを行い、多職種で力をあわせてチーム医療を提供しています。



●事務部

事務部は患者さんの窓口として医療現場と密接に連携しながら、病院機能の運営管理を行います。皆様に安心して当院をご利用いただけるよう様々な業務を行っています。

●経営企画室

経営企画室は、病院事業の総合的な企画・調整を行い、また、利用者の満足度を高めるために必要な情報を収集して経営改善を推進します。

充実したアメニティ

患者さんや患者さんに寄り添うご家族等のために、ラウンジ、売店や授乳室等を備えました。



地域医療・在宅療養を支え続ける

地域住民が安心して暮らすことのできる地域医療・在宅療養を支えます。予防医療、災害医療の充実や、医療安全への取り組み、そして、医療や健康づくりをテーマに公開セミナーを開催するなど、地域に向けた活動を積極的に行っていきます。

利用者の立場に立ち、公平、中立な立場で支援する

●地域医療支援室

地域医療機関や福祉施設等と連携し、患者さんに切れ目のない医療・看護・介護サービスが提供できるよう、関係部門を一体化してスムーズで確実な支援・調整を行っています。地域包括ケア病床には、在宅療養者で状態の悪化した患者さんを積極的に受け入れ、在宅への復帰を支援します。（居宅介護支援、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション）



●予防医療

地域住民の健康保持や疾病予防のため、人間ドック、特定検診、低線量肺がんCT検診などの予防医療に注力します。

●災害医療

災害医療協力病院として基幹災害拠点病院及び地域災害拠点病院と連携しながら被災者を受け入れるとともに、医療救護活動ができる人材を育成していきます。

●医療安全への取り組み

医療安全管理室を中心とした職員全員研修の開催や、安全に医療を行うための取り組みを行っています。



地域包括ケアシステムを推進して

●臨床研修、職員教育

臨床研修医や看護師・薬剤師・臨床検査技師等の学生の受け入れを行っています。また、職員は院内研修等を活発に行って、医療技術の向上に努めています。



●働く人のために

3階フロアには、スタッフが集うスタッフラウンジや医局を設けました。外窓を全面ガラスとして外景や光を取り込むなど、働く人のために気持ちが安らぐ癒しの環境を備えています。



急性期医療を支える最新医療機器



① X線CT…SIEMENS SOMATOM Definition AS + 128-Slice Configuration

短時間で全身撮影が行え、3D画像再構成、心電図同期撮影、デュアルエナジー撮影等により、急性期医療や手術をサポートします。

② MRI…GE Signa Artist 1.5T

通常撮影の他、バランスドSSFPによる短時間・高精細・高コントラスト撮影が行える等、緻密な画像診断が行えます。ワイドボアアントリーにより撮影スペースが広く、様々な体位での撮影が行えます。

③ ANGIO (血管撮影装置) …Canon Alfenix

最新の循環器診断システムは被曝線量の低減と高画質化を両立し、また、豊富な術中アプリケーションを備えています。3次元不整脈マッピングシステムを併用し、不整脈治療も行えます。

④ 超音波診断装置…GE Vivid E95、LOGIQ S8等心エコー専用装置、汎用エコー装置を備え、様々な疾患の検査が行えます。



Information インフォメーション

地方独立行政法人
香取おみがわ医療センター

TEL 0478-82-3161 (代表) FAX 0478-83-3032

〒289-0332 千葉県香取市南原地新田 438 番地 1

- 休 診 日 土曜・日曜・祝日・年末年始
- 診療受付 平日 8時から (予約が必要な診療もあります)
診療科により診療時間は異なりますので、詳しくはホームページ
等でご確認ください。
<http://www.hospital.omigawa.chiba.jp/>

附属施設

香取おみがわ医療センター附属看護専門学校

TEL 0478-82-2831 (代表) FAX 0478-82-2834

〒289-0332 千葉県香取市南原地新田 457 番地

Access 交通アクセス

電車でお越しの場合

- JR成田線「小見川駅」下車、タクシー 3分 徒歩 15分。

車でお越しの場合

- 東関東自動車道「佐原香取インターチェンジ」から 20分。
- 千葉交通バス (神里線、大倉線、府馬線)
「おみがわ医療センター」下車、正面玄関直結
- 高速バス 乗車場所：東京駅八重洲口前
 - ◆ 小見川ルート・小見川佐原ルート
「小見川支所」下車、徒歩 5分。
 - ◆ 佐原ルート
「小見川駅」下車、タクシー 3分 徒歩 15分

